

「宮小学校の吉水棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立宮小学校

2 学年・人数

3・4年生（計26人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成29年10月（全8回） 総合的学習の時間（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成29年11月7日（火） 校内学習発表会（本校体育館）

平成30年3月4日（日） 吉水2月祭り（鬼子母神社境内他）

※希望児童のみ参加

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

吉水棒踊り（よしみずぼうおどり）

(2) 由来

明治37年、東銀之助氏や米森けさじろう氏らが、南さつま市金峰町田布施をはじめ、他の地域の踊りを取り入れ、より勇壮な踊りを完成させた。以来、毎年吉水鬼子母神社の二月祭りに五穀豊穰を願い奉納され、大正、昭和、戦後と青年団が受け継いできたが、昭和60年の奉納以来途絶えた。その後、伝承芸能の棒踊りを復活させたいと棒踊り保存会と子ども会育成会の協力で平成8年3月に11年ぶりに復活し、現在まで毎年奉納されている。

(3) 構成など

棒踊りの構成は、踊り子12人を1組（歌い手10人程）とされていたが、現在は、小中学生と棒踊り保存会の方々20人程度で活動している。演目は、扇と短剣を使った「狂言くずし」、鎌と脇差を使った「鎌と三尺」、六尺棒と脇差を使った「六尺と三尺」、六尺棒と鎌を使った「六人棒」の4種類である。

5 保存会や地域との連携の具体

平成12年から、3・4年生の児童が総合的な学習の時間で吉水棒踊りの由来等を調べ、棒踊り保存会の指導を受けて伝承活動を行っている。

今年度も11月の学習発表会に向けて、1か月前から週2回ずつ合計8回の踊りの練習を行った。練習の日程計画を学校が立て、学校支援地域ボランティアコーディネーターが保存会の方々との連絡を取り、9月中に踊りの種類や日程の打ち合わせを行った。練習時は、毎回5～8人のゲストティーチャーにお願いした。踊りの衣装や道具も保存会からお借りし、当日の衣装の着付けや着た衣装の洗濯は、保護者の方々に手伝いを依頼した。

毎年3月、吉水鬼子母神社で奉納される二月祭りには、保存会の依頼を受け、中学年以上の児童や学校職員の希望者が参加している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、総合的な学習の時間の中で「ふるさとの文化に親しもう」というテーマのもと、毎年3・4年生で授業を実施している。棒踊り保存会の方々から棒踊りを学ぶ体験を通して、地域の人々の思いや願い、良さに気付き、地域へのかかわり方を考えるこ

とができるようになると思う。具体的な取組の工夫として以下のようなことを行っている。

- 吉水棒踊りの歴史を学ぶため DVD の活用
- 年長者から年少者への伝承
4年生から3年生に教える場の設定。保存会の方々への質問、インタビューの時間を設ける。
- 郷土芸能を広く知らせる場の設定
毎年、学習発表会で発表し、地域の方や保護者に観てもらおう。

7 取組の様子(練習状況、発表の場など)



【4年生が3年生にお手本を見せる】



【体育館での全体練習】



【学習発表会で調べたことを発表】



【棒踊りの発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員などの感想意見

- 転入してきた私は、初めて棒踊りを踊ることになった。最初の練習はとても緊張したが、保存会の方にも慣れ、友達が優しく教えてくれて練習も少しずつレベルアップしてきた。しかし、動きに集中すると声が出せなくなってしまいう難しさがあった。また、踊りの練習をしながら、宮っ子の時間にグループで協力して、棒踊りの歌詞と意味を調べた。地域の人に聞いたり、本やインターネットを使ったり一生懸命調べ、この踊りには長い歴史があることが分かった(参加児童の感想)。
- 地域の保存会のみなさんが、熱心に子ども一人一人に向き合ってくれる姿が印象的だった。子どもたちと一緒に教員も踊りの指導を受けたが、いざ踊ってみるととても難しく、その繊細な動きを地域で大切に伝承していくことの大切さを感じている。二月祭りもぜひ参加してみたい。(教員感想)。